

一日千秋の、秋が来た



荒田珈琲
新聞
Vol.98
2025.10.1(水)

10月になりました。8月から続いたワンオペ営業がひと段落し、無事に店主とヨメの二人体制に戻りました。珈琲屋は秋から年末に向けて少し忙しくなりますから、そろって10月を迎えられて安心しています。平日お休みしていたベーグルサンドも再開して通常運転です。いつもの顔(×2)で皆さまの来店を心よりお待ちしております!!

映画倶楽部 at home

映画好きのヨメが勝手に語る新コーナー、たまに登場。出張中、成瀬巳喜男監督の50~60年代の作品を続けて観る機会がありました。どの映画も名作ばかりで当時を生きるリアルな女性たちが描かれ、「舌いれる」「浮雲」の高峰秀子さんと「めし」「山の音」の原節子さんの魅力は白黒の映像でも輝いて見えました。



冒頭に「現代には不適切な表現が含まれますが作品のオリジナリティを尊重します」と出るような昭和前半の価値感や台詞、男性優位の社会で生きる主婦の姿、家庭問題の苦労や小泣きも、令和時代の日本につながる足跡で、時を経て映画の味となっているように思います。



俺は誰?

物語は淡々と進み、大きな事件はあまり起こりません。「見どころ」は、まるで川の流氷が少しずつ石を丸くするかの如く細やかに表現される心模様や、感情の静かな変化。露骨でないのにササに生々しく、隣の茶の間を覗いてしまった気分になりました。更に、クライマックスを引きずらない潔さで掲げられる「終」の一字。その矢がどうなったのか、受け取る側に余韻を委ねてきます。聞けば、今年2025年は成瀬監督の生誕120年だそうです。今なお評価され続ける名画との出会いが興味深く心に残りました。

ところどころ「ちょっと話しましょか」というシーンに欠かせないのが喫茶店の存在です。

珈琲を飲みながら対話すると落ち着きますし、人間関係を円滑にしてくれる効果もあるためでしょうね。これは時代とともに人の生き方が変わっても、きっと不変でしょう。そういえば渋谷のスペイン坂に「人間関係」という老舗カフェがあります。初めて立ち寄ったとき、変わった名前のお店だなあと由来を考えたものですが、歳を重ねてみるとこの上なくピッタリの屋号に思えます。久しぶりに訪ねてみようかしら...



「乱れる」の加山雄三さん
百千秋の思いで義姉に焦がれる姿ハンサムすぎる!

10月のスケジュール

・休業日・

6(月)・7(火)・14(火)・
20(月)・21(火)・27(月)・28(火)

※13(月・祝)は営業日です
※11(土)・12(日)・13(月)は
18時閉店(LO17時)です

お彼岸が過ぎた頃から急に秋めいてきましたね。「暑さ寒さも彼岸まで」とは言いますが、猛暑から一転いきなり朝晩がひんやりと空気が変わりました。気温差のある季節の変わり目は羽織れる上着を一枚持ってお出かけください。美しい紅葉や旬のおいしいものを楽しみ、元気に秋本番を迎えましょう!